

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	伊勢市交流事業(子ども)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習・スポーツ課		包含する細々目	1	10	5	2	10	1	1,323
政策	8 交流と連携が活力を生むまちづくり											
施策	81 都市間交流の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間		年度～	年度	関連計画 条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	・交流参加小学生 ・交流受入校中学生	交流参加児童生徒数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			173	173			
	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度					
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
他地域の同世代の子ども達との交流で、集団行動、協調性、自主性を学ぶ。また、飯田出身の田中芳男をキーワードに両市の歴史的な繋がりを学習し、郷土に誇りと愛着持つ人材を育成する。	交流参加児童生徒数(人)	18目標	最終目標		最終目標達成年度		
		18実績	64	19目標		↑	
		23目標	23実績				
		18目標	最終目標			最終目標達成年度	
		18実績	19目標				↑
		23目標	23実績				

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	負担金 <参考> 細々目名:青少年健全育成事業費 他地域との交流を通して、友情と連帯の輪を深め、両市の親善に寄与する。両市の次代を担う小中学生を対象とし、学校内外の生活や文化を学び地域社会のことに情報交換や話し合いを行う。特に、飯田出身の「田中芳男」の伊勢市との歴史的なつながりを学習し、お互いの地域を再発見することで、郷土を愛し誇りに思う人材を育成することを交流事業の目的としていく。	18年度の実績 (上郷小、座光寺小、上村小、和田小、緑ヶ丘中、上村中、遠山中)と伊勢市との交流。夏季は上郷小、座光寺小、上村小、和田小の児童が、今年度はじめて田中芳男が創設に尽力した「神宮農業館」「神宮徴古館」を伊勢の児童と一緒に見学。 夏季交流:8月3・4日 冬季は平成19年1月21日(日)・22日(月)緑ヶ丘中、上村中、遠山中が参加し、伊勢市中学生と交流事業実施。 冬季交流については、スキー以外の体験型学習事業を伊勢市に提案した。	交流参加児童 飯田市(人) 33 伊勢市(人) 76 交流参加生徒 飯田市(人) 36 伊勢市(人)	
		19年度計画 伊勢市との交流事業の内容、時期について見直しを進める。体験を中心とした交流内容とし、開催時期、参加対象者も含めて伊勢市と検討を行う。 平成19年度交流実施予定校:高陵中、松尾小、竜丘小、下久堅小		

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	0	
	一般財源	1,350	1,323
事業費計(A)	1,350	1,323	
人件費	正規職員所要時間	18年度 312	19年度 312
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,116	1,116
	トータルコストA+B	2,466	2,439

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	飯田市や自分に無い知識や情報に触れる。相手にない情報を発信する。	都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏除く)	現状値	19実績		
			20実績	21実績		
			22実績	23目標		
			現状値	19実績		
			20実績	21実績		
22実績			23目標			

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
昭和53年度からこの事業が始まった。海に恵まれ歴史、伝統、文化や自然などの特性を生かし多くの国内外の人々に新しい出会いと交流の場を提供する「交流都市」をまちづくりに掲げる伊勢市と山にはくまれた歴史と文化が根付く飯田市との交流事業は、伊勢市と飯田市の子ども達が互いの地域を訪れ、学校内外の生活や地域社会の事について情報交換や話し合いを行い、お互いの地域を知る事で親善を深めてきた。特に両市にとって、飯田出身の「田中芳男」が建設に尽力した「神宮農業館」が伊勢市にあり、両市の児童生徒が、この歴史的なつながりを学ぶことで、改めて自分たちの住む地域を見直し、郷土	夏季交流は小学生交流、冬季交流は中学生交流として実施してきたが、両市とも平成17年度に市町村合併が行われ、交流参加校や交流内容、実施時期について見直しが必要な時期にきている。	伊勢市との27年にわたる交流は参加者それぞれの成長過程の中で自分達の住む飯田を改めて見直し、郷土に愛着と誇りを持つ気持ちの醸成に繋がっている。また、交流体験をもった人たちが地域のリーダーを担う人材になりつつある。

## 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	交流によって得られる成果の検証を行い、郷土に愛着を持ち、目的意識をしっかりとった人材の育成を行う手段として、この事業が機能するための方策を考えていく。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	伊勢市側との交流会内容、実施時期等の調整が必要なため、飯田市単独で交流事業を組み立てられない。今後は、伊勢市側とさらに協議を重ね、体験活動を中心とした交流内容を考えていく。

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	